

決 議 案

本日、1年ぶりに「全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会」を開いた。新型コロナウイルスの蔓延のため、昨年10月に国民大集会を開いた後、救出のための多くの活動を控えざるを得ない日々が続いた。また1年、被害者を取り戻せない月日を重ねてしまった。彼の地で助けを待っている被害者たちに申し訳なく、悲しさと怒りがわいてくる。

しかし、被害者救出を願う国民の声はコロナ禍でもより一層強まっている。救出実現を求める署名は1500万筆を超えた。総選挙では「被害者の生存を前提に救出する」という政府方針に反する妄言を吐いた候補が国民の審判を受けて落選し、主要政党すべてが「全拉致被害者の即時一括帰国」という私たちの方針に賛意を表明した。

岸田文雄首相は就任直後に家族会と面会し「変わりなく、拉致問題（解決）は最重要課題」「私自身先頭に立って取り組んでいかななくてはならない」と力強く語った。

北朝鮮の経済危機は悪化し、兵士らは食料が枯渇して強盗化し、党と政府の最高幹部らへの物資供給が止まり、中央銀行は紙幣が刷れなくなりペラペラ紙の臨時紙幣を発行するも偽造が横行してその発行を止めるという体制危機が深刻化している。動揺を抑えるためミサイル発射など挑発を続けているが、国際社会は最高度の制裁を維持している。「先圧力、後交渉」にもとづき何としてもこの厳しい制裁を背景にして、日朝首脳会談で「全拉致被害者の即時一括帰国」を決断させなければならない。

北朝鮮が日本から多額の経済支援を得るためには親の世代の拉致被害者家族が健在のうちに全被害者を一括して帰すしか道はない。親の世代が被害者と抱き合うことなしには、日本の怒りは解けず、支援はあり得ないことを、北朝鮮の最高指導者に伝えることが、今大切だ。救出のシンボルのブルーリボンをつけて日本中で「全拉致被害者の即時一括帰国」を求める声を上げようではないか。

以下決議する。

1. 政府は、国民が切望する全拉致被害者の即時一括帰国を早急を実現せよ。
2. 北朝鮮は、全拉致被害者の即時一括帰国をすぐに決断せよ。
3. 12月の北朝鮮人権週間に、閣僚、国会議員、地方自治体首長、地方議員の全員、また多くの国民がブルーリボンをつけて救出への意思を示そう。

令和3年11月13日

「全拉致被害者の即時一括帰国を求める 国民大集会」参加者一同